

# 特別養護老人ホームにおける感染性胃腸炎（ノロウイルス感染症）対策の留意点

## 1 ノロウイルス感染症とは

ノロウイルスは、以前「小型球形ウイルス（SRSSV）」と呼ばれ、冬季に感染性胃腸炎を起こす主要な病原体として知られていました。カキなどの2枚貝を食べて食中毒を引き起こす病原体ともなっています。

### 症状

吐き気やおう吐、下痢や腹痛、発熱があらわれて、ほとんどの場合1、2日で症状は治まります。なお、子どもはおう吐が多く、大人は下痢が多いといわれています。

### 潜伏期間

普通、感染してから1、2日で症状があらわれます。しかし、もっと短時間で症状の現れる人もいます。

### 感染経路

感染者の便やおう吐物に触れた手や食べ物を介して、人から人へ感染し、また、おう吐物等の処理が適切に行われず、床などに飛散したおう吐物等が乾燥し、数日後に空気中に舞い上がり感染した事例なども報告されています。

### 感染期間

便の中に病原体が排泄されている限り、他の人に感染させる可能性はあります。一度発症すると、症状が治まっても2～3週間は便の中にウイルスが見つかることがありますので、しばらくの間は、排泄や入浴時の介護において注意する必要があります。

### 消毒方法

ノロウイルスに効果のある消毒は、一般的に、加熱処理（80℃で10分以上）によるか、念入りな洗浄、清拭により物理的にウイルスを除去した上で、次亜塩素酸ナトリウムで消毒を行うことが有効とされており、アルコールや逆性石鹼（商品名「ウエルパス」等）などはあまり効果が期待できません。

## 2 ノロウイルス感染症の二次感染防止のための基本事項

### 手洗いの励行

食事、衣類の着脱、入浴の介護にあたり、事前に必ず石けんで手洗いを行い、物理的にウイルスを除去します。また、おう吐物、便等の処理後も必ず石けんで手洗いを行います。

### おう吐物・便等の処理

二次感染の感染源となるおう吐物等を、使い捨て手袋などを用い素手で触らないように気をつけながら、使い捨てできる布や紙などできれいに拭き取

ります。拭き取ったものは、ビニール袋などに入れ、外に漏れないようにして捨てます。

おう吐物等で汚染された床などは、次亜塩素酸ナトリウムを用いて消毒します。

#### 衣類・寝具の処理

おう吐物・便等で汚染された衣類やシーツなどの寝具は次亜塩素酸ナトリウムを用いて消毒してから、洗濯します。次亜塩素酸ナトリウムによる消毒が不可能な色柄ものは加熱処理してから、洗濯します。消毒薬や加熱処理ができないような布団などは、クリーニング処理をするか天日干しします。

#### 入浴

下痢のある時には、入浴はシャワーだけにするか、入浴する順番を最後にし、お尻は石けんをつけて、ていねいに洗います。

以下、冬季（10月から3月）におけるおう吐物の処理の具体例等を記載します。また冬季以外でも通常よりおう吐、下痢等の消化器系症状を呈する入居者が増加したと思われる場合は、同様の対応が必要です。

### 3 おう吐物処理の具体例

おう吐物の処理を行う際には、必ず使い捨て手袋、マスク、汚物処理用エプロン（不浸透性のもの）を着用し、廃棄物用ビニール袋及び汚染物付着衣類用ビニール袋を用意し、以下の手順で行う。

新聞紙等でおう吐物を覆う。

新聞紙等を軽く持ち上げ、直接おう吐物に満遍なく次亜塩素酸ナトリウム（1000ppm）をじょうろ等で静かにかける。

覆いをした状態で10～20分放置したあと、新聞紙等の上からも次亜塩素酸ナトリウムをかけ、おう吐物ごと持ち上げ廃棄物用ビニール袋に入れる。

おう吐した場所を次亜塩素酸ナトリウムを十分にしみこませたペーパータオル等で再度5～10分覆った後、残ったおう吐物を拭き取り、廃棄物用ビニール袋に入れる。なお、拭き取りするときは、ウイルスの拡散を防ぐため往復せず一方向で行う。

おう吐物が付着した衣類と処理時に使ったエプロンは汚染物付着衣類用ビニール袋に入れる。（衣類の処理は「5 汚染物付着衣類等の処理例」を参照）

処理に使用した手袋、マスク、新聞紙、ペーパー等は全て、ビニール袋に入れ次亜塩素酸ナトリウムをかけて廃棄する。（ビニール袋からおう吐物がもれないことを確認する。）

## 注意点

- ・処理が終わるまでは、他の者をおう吐物が飛散した場所に近づけないようにする。
- ・おう吐物の処理を行った後は、石鹼と流水で十分に手洗いをする。

## 4 おむつ交換時の処理例

- ・感染防止のため、使い捨てのおしりふきを使用する。(大判のウェットタオルタイプのもの、市販の大人用おしりふき)
- ・廃棄物用容器(ビニール袋を張る)と汚染物付着衣類用容器を用意する。(容器類の蓋の開閉は、なるべく足踏み式のものが良い。)
- ・交換時には使い捨て手袋、汚物処理エプロン(不浸透性のも)を着用し、廃棄物用ビニール袋、汚染物付着衣類用ビニール袋及び手指等のスプレー式消毒薬(ウエルパス等)を用意し、以下の手順で行う。

手袋を着用する。

ズボンを下ろす、おむつを開く。

おしりふきで拭く、おしりふきは手持ちの廃棄物用ビニール袋に入れる。

手袋着用のまま、スプレー式消毒薬で手指を消毒する。

新しいおむつを敷き、古いおむつと交換する。おむつは手持ちの廃棄物用ビニール袋に入れる。

衣類に便・尿の付着(失禁等)があれば衣類を脱がせ、手持ちの汚染物付着衣類用のビニール袋に入れる。

手袋を裏返しにしながらはずすか、スプレー式消毒薬で消毒してからはずし、手袋は手持ちの廃棄物用ビニール袋に入れる。(手袋を脱いだ後は感染防止のため、汚染物には触らない。)

ビニール袋をしぼる。

ズボンをはかせる。

廃棄物は廊下などでビニール袋ごと、廃棄物用容器に捨てる。便付着衣類もビニール袋ごと汚染物付着衣類用容器に入れる。

の廃棄物容器は所定の処理室に持っていき処理する。汚染物付着衣類の処理は「5 汚染物付着衣類等の処理例」を参照する。

全員の交換終了後、手洗いを行う。石鹼で十分に手洗いを行い、ウイルスを洗い流し、ペーパータオルで水気をふき取り、ウエルパス等で消毒する。(ウエルパス消毒のみでは、ノロウイルスには効果がない。)

## 注意点

- ・便やおう吐物がエプロンに付着したら汚染物付着衣類用ビニール袋に入れ処理する。
- ・ノロウイルスが検出された人のおむつ交換は最後に行う。

## 5 汚染物付着衣類等の処理例

処理は専用の処理室で行う。処理を行う際には、必ず汚物処理室専用の履き物、使い捨て手袋、マスク、汚物処理用エプロン（不浸透性のもの）を着用し、以下の手順で行う。

バケツ等の専用の容器に次亜塩素酸ナトリウムを作り、付着衣類を付着物ごと浸す。

- ・急ぎの場合：1000ppm で 10分
- ・時間がある場合：200ppm で一晩

（色柄物は熱湯に浸す。80～10分以上）

消毒後の衣類を取り出し、流水で汚物を洗い流し、洗浄機に運ぶための専用の容器等に移す。

手袋、マスクをはずしビニール袋に入れ、廃棄する。（廃棄までは汚物処理室に置いておく。）

洗浄機で普通に洗濯する。

### 注意点

- ・吐物等による汚染がひどいときは、の流水による洗浄後、再度、次亜塩素酸ナトリウムによる消毒を行う。

## 6 排泄介助の処理例

手袋、使い捨てのおしり拭き、ビニール袋、ペーパータオル、石鹼、ウエルパスを用意し、以下の手順で行う。

手袋を着用し、ズボンを下ろし、排泄させる。

終了後、おしり拭きで拭く。

おしり拭きはビニール袋に入れる。手袋を裏返しにしながらはずすか、スプレー式消毒薬で消毒してからはずし、ビニール袋に入れ密封する。ズボンをはかせる。

職員、入居者とも石鹼で十分に手洗いを行い、ウイルスを洗い流し、ペーパータオルで水気をふき取り、ウエルパスで消毒する。（ウエルパス消毒のみでは、ノロウイルスには効果がない。）ペーパータオルはゴミ箱に捨てる。

ビニール袋は汚物処理室に保管し、一般ゴミとして廃棄する。

### 注意点

- ・汚物が床に落ちたときは、「3 おう吐物処理の具体例」と同様に行う。
- ・便座を汚した場合は、塩素で消毒し、ペーパータオルで拭き取り、ビニール袋に入れる。

## 7 汚物処理室、トイレの清掃例

処理を行う際には、必ず汚物処理室及びトイレ清掃用それぞれの専用履物、清掃用手袋、マスク、汚物処理用エプロン（不浸透性のもの）を着用し、以下

の手順で行う。便や汚物が床に飛散した場合は、「3 おう吐物処理の具体例」と同様に扱う。

モップは汚物処理室清掃専用、トイレ清掃専用、居室用の3種類を用意し、居室清掃用のモップは汚物処理室外に保管する。

モップしぼりに次亜塩素酸ナトリウム（200～250ppm）をつくりモップを浸して床面を拭く。

汚物が飛散した可能性がある場所（壁、汚物処理タンク、蛇口等）は次亜塩素酸ナトリウム（200～250ppm）を浸したペーパータオルで拭く。

使用したモップはモップしぼりに残った次亜塩素酸ナトリウム（200～250ppm）に30～50分浸しておき、水洗する。週に一度は1000ppmの次亜塩素酸ナトリウムに30～50分浸し消毒を行う。

使用したペーパー等はビニール袋に入れ密封して廃棄する。

## 8 入浴時における注意点

### 機械浴

- ・下痢等の症状がある入居者は、シャワーに限定し入浴を控える。
- ・入浴の前には石けんでおしりをよく洗い、流水で洗い流す。その際、便の付着が認められた場合は、事前に使い捨てのおしり拭きでふき取り、汚物入れに入れる。
- ・浴槽水の塩素消毒については、ノロウイルスに対しては消毒効果は期待できないが、その他の消化器系感染症予防のために、入浴前に塩素濃度を測定し、浴槽水の塩素濃度は常に0.2～0.4ppmに維持する。
- ・タオルは共用しない。
- ・使用したストレッチャー及び床面は、流水で洗い流す。
- ・全員入浴後、床面、マット、ストレッチャー、洗面器は洗剤を使い、汚れをよく洗い流す。必要に応じて塩素消毒（250ppm）を行う。
- ・入浴中に排便した際には、浴槽水は全て流し、浴槽は掃除、塩素消毒（250ppm）を行う。

### 一般浴

- ・下痢等の症状がある入居者は、シャワーに限定し入浴を控える。
- ・入浴の際には、体をよく洗ってから入浴する。特におしりは念入りに。
- ・タオルは共用しない。
- ・浴槽水の塩素濃度は常に0.2～0.4ppmに維持する。
- ・入浴中に排便した際には、浴槽水は全て流し、浴槽は掃除、塩素消毒（250ppm）を行う。

以上、一般的な汚物等の処理手順や注意点を参考として記載しました。各施設において、この手順を参考に、より具体的な手順や注意点を作成し、活用されることをお願いいたします。

参考1 次亜塩素酸ナトリウム（6%溶液の場合）の薄め方

(1) 1000ppm（嘔吐物処理用）

作る量	作り方
3リットル	次亜塩素酸ナトリウム 50ml に、水 2,950ml を加え、3リットルとする
6リットル	次亜塩素酸ナトリウム 100ml に、水 5,900ml を加え、6リットルとする
9リットル	次亜塩素酸ナトリウム 150ml に、水 8,850ml を加え、9リットルとする
12リットル	次亜塩素酸ナトリウム 200ml に、水 11,800ml を加え、12リットルとする
15リットル	次亜塩素酸ナトリウム 250ml に、水 14,750ml を加え、15リットルとする

(2) 250ppm（要消毒洗濯物処理、トイレ汚物処理室、バケツ清掃用）

作る量	作り方
30リットル	次亜塩素酸ナトリウム 125ml に、水 29,875ml を加え、30リットルとする
60リットル	次亜塩素酸ナトリウム 250ml に、水 59,750ml を加え、60リットルとする

(3) 200ppm（嘔吐物・便付着物処理、トイレ・汚物処理室清掃、  
食堂床・手すり等清掃用）

作る量	作り方
3リットル	次亜塩素酸ナトリウム 10ml に、水 2,990ml を加え、3リットルとする
6リットル	次亜塩素酸ナトリウム 20ml に、水 5,980ml を加え、6リットルとする
9リットル	次亜塩素酸ナトリウム 30ml に、水 8,970ml を加え、9リットルとする
12リットル	次亜塩素酸ナトリウム 40ml に、水 11,960ml を加え、12リットルとする
15リットル	次亜塩素酸ナトリウム 50ml に、水 14,950ml を加え、15リットルとする

参考2

A (ppm)の消毒薬、B (リットル)を作る時の、次亜塩素酸ナトリウム溶液(C%溶液)の必要量 X (ml)を求める計算式

$$X (ml) = A (ppm) \times B (リットル) \div C (\%) \div 10$$

注意点

次亜塩素酸ナトリウムは購入後長期間が過ぎた場合や、保管状態が悪かった場合に、有効塩素が消失することがありますので、商品の使用上の注意事項を必ずお読みください。